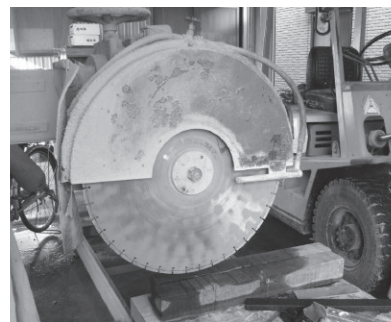




耐震設計や自由なデザインなど新需要を開拓



美術関係の大学で教職もとりましたが、石屋を継いだのです。家を継ぐのは当たり前。それが自然な時代でした。石工は曾祖父いしく そうそふに始まり、私で4代目。お寺の檀家だんかさんとは、長いおつき合いになります。石工という仕事は専門職ではあっても、昔は農家との兼業だったのです。半農半漁ではなく、半分農業して半分は石屋。その頃も、1年に何本も墓石をやるわけではありません。自分で原石

を仕入れ、1本1本時間をかけ、磨きから字を彫るまで、それこそコツコツとやっていたそうです。もっとさかのぼると、石屋は字のごとく石器時代からある職業。ペルーの遺跡・マチュピチュもそうですが、昔の石積みはずごいのがあります。名も無き石屋さんがつくったんだから、石工は人類の証みたいなもの。お墓も宗教や様式、文化や歴史など、広くて奥の深い世界なのです。



プロフィール **大木 幹夫** おおき みきお

石工 35年

川崎市多摩区出身。60歳。石材店に生まれ、大学を卒業してすぐ山梨県の石材店で、研修を兼ねて働く。石材加工の基礎を学び、家業に就く。実務経験を積み、技能を研鑽、小さいながらも石材加工・施工までをトータルに扱う、地域の老舗石材店の4代目として活躍。1級石材加工技能士、1級お墓ディレクター。現在、有限会社大木石材店代表取締役。

有限会社大木石材店

〒214-0037 川崎市多摩区西生田2-7-21

TEL.044-966-3257 FAX.044-966-3648

活躍の場

墓地、庭園など



仕事道具 3種

【石頭／のみ】 石頭は、鉄製の槌のみやタガネを、叩くのに使う(写真左)。

【びしゃん】 石の表面を粗くしたり、角を丸くする、粗く割った断面をならすなどに使う(写真中央)。

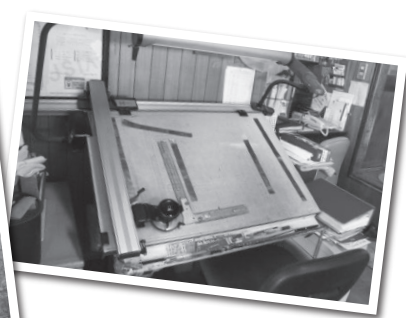
【こやすけ】 石の幅を詰めたり、端を合わせるときに使う、石割り用ののみ(写真右)。



職人からのメッセージ

● 石工という仕事内容

石工は、お墓の原石や半製品を仕入れて設計・デザインし、切削、研磨などを施す<石材加工>。もしくは墓石として、外柵も含めて墓地に建造する<現地施工>をするお仕事です。庭園用の灯笼や庭石も扱います。墓石の販売なども行う<石材店>としての役割もあります。



必要資格

特に必要はありませんが、<石材施工技能士>という国家資格があります。1級と2級があり、受験には実務経験が必要。また学科試験、実技試験(石材加工作業・石張り作業・石積み作業)で石材施工についての知識と技術が審査されます。

● 石工という仕事の展望

複数のお寺などの指定店として信頼関係を築けば、安定的な職種です。ただ墓石の小型化や、自然葬など、人々の価値観も変化しています。同業・異業種の競争も生まれ、単面的にも以前ほど良くはありません。お客様のご希望を取り入れた墓石設計ができるような柔軟性とセンスで、新しいチャレンジが求められています。

● 一人前になるまで

早い人でも、4~5年はかかると思います。字を彫るとなると、プラス5年はかかるでしょう。実務経験を積みながら技能検定を受けるのは、いい目標になります。

この仕事に向いている人

石は重いもの。冬は寒いし、夏は暑い現場なので、体力があり健康なこと。ただし、設計や営業面では、繊細さや細やかさも必要。

石工を目指す方へのアドバイス

石が好きであってほしい。とはいえ、職業は理想とは違います。私も最初から、石が好きだったわけではありません。ただ石工の仕事は、世の中に必要な技術なり仕事として、あり続けると思います。まずは広く自分の興味をもったものを選び、選んで欲しい。そういう体験の中で、石工という職業に出会ったらと思います。その上で石に魅力を感じ、好きになってくれたら、うれしいです。